岡県小倉、八幡、門司中学校教諭を勤め、1938（昭和13）年12月、陸運省の「愛馬進軍歌」作曲募集に応募し、3，000余篇の中から見事一等当選し、作曲家としても全国に名が知れ渡りました。當山正堅は正一の快挙をとても喜び、沖縄県内の様々な機関に働きかけ、盛大な演奏会まで催したそうです。

正一の父・正成の手記には、一期後輩として沖縄師範学校へ入学してきた當山正堅のことを「同村出身の弟分が入学したと大喜びした」と記しています。同郷の恩納村から共に教師を志し、同窓として勉学に励んだことから、當山正堅と新城正成の親交は深まり、さらには正成の息子である正一の活躍も、當山正堅は自分のことのように喜んだのではないかと思います。

残念ながら正一は、1943（昭和18）年に35歳の若さで亡くなってしまいます。晩年まで県外で教師生活を送っていたようですが、1940（昭和15）年には天願小学校、1941（昭和16）年には多良間小学校の校歌など次々と作曲しました。恐らく「愛馬進軍歌」の一等当選で全国的に有名になった功績が重視され、遠く離れた沖縄から次々と作曲依頼が舞い込んだのではないかと考えています。1942（昭和17）年には恩納小学校の校歌も作曲していることから、恩納村歌についても故郷の村長で、作詞者である當山正堅から依頼されたのではないかと考えています。

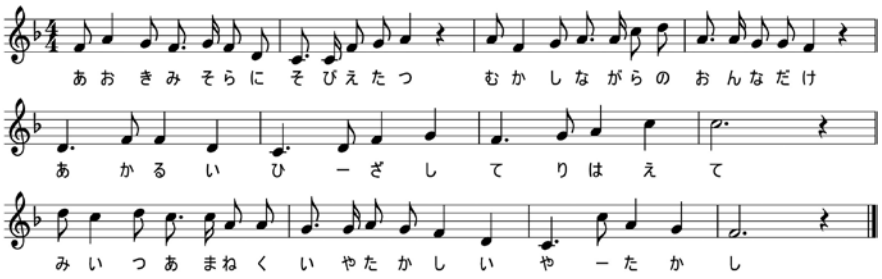
1978（昭和53）年の村勢要覧から、村歌の編曲者として屋富祖寛治の名前が見られるようになり、1983（昭和58）年にはレコードも作られました。屋富祖寛治さんが村歌を編曲した経緯についても詳しいことがわかっていないので、何かご存知の方がいらっしゃいましたら、村史編さん係まで情報をお寄せください。

（町田）

（當山正堅については広報おんな391号、新城正一については広報おんな393号で詳しく紹介していますので、併せてご覧ください）

恩納村歌

作詞　當山 正堅
作曲　新城 正一



一、青きみ空にそびえたつ
　昔ながらの恩納岳
　明るい日射し照り映えて
　みいつあまねくいやたかし〈

二、太平洋の黒潮を
　うけて轟く万座毛
　あゝ天然の美たぐいなき
　神のみわざの尊さよ〈

三、南残波の入江より
　北は武瀬名の岸辺まで
　白砂青松連なりて
　その名うるわし恩納村〈

四、地の利人の和恵まれて
　山に畑に又海に
　老も若きも増産に
　燃ゆる農村ここにあり〈

■参考文献
『恩納村誌』　1980年　仲松弥秀
『いやしの里　名嘉真』　2012年　名嘉真区
『当山正堅伝』　1959年　当山正堅先生伝記編集会
『恩納小学校創立百周年記念誌』　1984年　恩納小学校創立百周年記念事業期成会
『恩納村村勢要覧』　1978年　恩納村役場企画課
広報おんな　391号、393号　恩納村誌編さん室だより